

JA全農えひめ情報

おらんど

■特集

平成27年度事業方針

4

2015・April

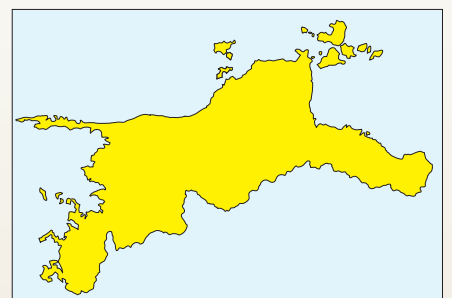




▲3月27日には、JA全農えひめと㈱ひめライスの代表が、愛媛県庁に中村時広愛媛県知事を訪問し、新商品の発売を報告。新商品で作ったおにぎりを試食した中村知事は、「塩味だけでも十分に美味しい」「愛媛県としても協力していきたい」と激励の言葉がありました。



愛媛県産「ヒノヒカリ」 食味ランキング特A獲得 (県内)



今年2月19日発表された一般財団法人日本穀物検定協会の「平成26年産米食味ランキング」で愛媛県産「ヒノヒカリ」が愛媛県の水稲品種として初めて最高ランクの「特A」を獲得しました。

JA全農えひめと㈱ひめライスは、「特A」取得を記念して、愛媛県産「ヒノヒカリ」の新パッケージ商品を作成。㈱ひめライスが3月中旬から販売を始めました。新パッケージ商品は、ひめライス「特A愛媛県産ひのひかり」(5kg・10kg)。「食味ランキング 特A獲得」を強調し、消費者になじみやすいように商品名はひらがなで表記。米の食味ランキングで最高ランクの特Aを獲得した同一産地同一品種のお米であることを強調しました。また、金色と黒色を基調として、王冠のイラストを使い高級感を出しています。

商品は、県内スーパー等で販売し、新たに作成したポスター・のぼり・レールPOPなども活用して、消費拡大・販売拡大と認知度向上に取り組みます。

また、㈱ひめライスは、愛媛県産「ヒノヒカリ」を使っている既存2商品(「愛媛FC応援米」「無洗米 あらうまいノ愛媛県産ヒノヒカリ」)について、袋に「特A獲得」がわかるシールを貼付しアピールしていきます。

あぐり〜ど

April 2015

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



竹林の地面に微妙なひび割れ、もりあがり。春の気配を感じたタケノコがによきによきと顔をのぞかせようとしています。土の中から掘り出してみれば、抱えきれないほどの重くて大きなタケノコたち。収穫作業が一段落すれば、お昼にしましょう。おにぎり、草餅、山菜や菜の花の和え物、イチゴなど。今度はお弁当の中から、春があふれ出しました。

●表紙：タケノコ掘り
はら ふみ(イラストレーター)

※『あぐり〜ど』は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.172

愛媛県産「ヒノヒカリ」 食味ランキング特A獲得 (県内)

2

〈特集〉平成27年度事業方針

～変革・創造・実践～

事業施策の補強と加速化により、
元気な産地づくりと地域の暮らしへの
貢献などに取り組む！

9

機構改革と人事異動

10

県本部長就任あいさつ

11

JA全農えひめ平成27年度機構図&ライン配置

12

THE・ねっとわーく

13

統計BOX

14

ふるさと ESSAY VOL.240

野菜ソムリエに挑戦奮闘記

松岡 恭子さん

16

TOPIC NEWS

19

なんでもBOX

20

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉グリーンアスパラガス

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

（変革・創造・実践）

事業施策の補強と加速化により、元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献などに取り組む！

JA全農 平成27年度計画

基本方向

1. 情勢認識

(1) 26年4月の消費税率引き上げ以降、国内景気の回復は停滞しています。また、円安基調の継続による肥料・飼料原料の高止まりなど生産費増高が懸念されます。

(2) 政府が、26年6月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂し、農協改革の推進等による農業者の所得向上に向けた施策を提起しており、全農に対しては、農畜産物の付加価値向上やコスト低減など事業戦略の明確化を求めています。

また、米の生産数量目標の廃止検

討と助成金体系の変更など米政策の見直しが決定された中、飼料用米など水田活用米穀の生産拡大対応が急務になっています。

(3) 米の消費は、長期減少傾向が続いており、1人あたりの年間消費量は60kg弱とピーク時の半分以下となっています。今後、米の消費拡大が重要課題となっています。

一方で、家計消費における中食・外食の比率が増加し、とりわけ、青果物では輸入品が一定のシェアを占めるカット野菜・惣菜需要が拡大しています。したがって、加工・業務用の大口実需者ニーズに即した国産品への切り替え、加工事業への進出など、さらなる積極展開が必要です。

また、大手小売業者は、実店舗や

オンラインストアなど販売・流通チャネルを統合し、様々なチャネルからの販売を展開しています。JAグループにおいても、ネット販売や外食店舗など既存の販売チャネルを連携させた消費者接近型事業の強化やブランド認知度の向上、6次産業化の促進等による農畜産物の付加価値向上の必要性が増しています。

2. 基本的考え方

(1) 事業施策の補強と加速化

3か年計画の3大重点事業施策である、①「元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献」、②「国産農畜産物の販売力強化」、③「海外事業の積極展開」の総仕上げに取り組めます。

「農林水産業・地域の活力創造プラン」を受けて策定したJAグループの自己改革の中で、農業者の所得向上および生産基盤の維持・拡大ならびにJA経済事業の支援に資する

表1 全農 平成27年度 事業別取扱計画

(単位：億円、%)

事業	27年度計画	26年度計画	前年比
米穀農産事業	8,126	8,637	94
園芸事業	11,323	11,567	98
畜産事業	10,884	11,103	98
営農・生産資材事業	8,693	8,537	102
生活関連事業	8,656	10,087	86
合計	47,681	49,931	95

本会の基本的な事業戦略として、①プロダクトアウトからマーケットインへ事業を転換、②生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み、③農産物生産にかかる多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応、を明確化しました。

これらの事業戦略に基づき、国産農畜産物の消費拡大に向けた新しい食べ方や加工商品の開発・提案、業

態別実需者ニーズ

に即した商品の提案、広域共同利用施設の設置、新しい産地づくりができる体系的な人材の育成、などを補強し、実践を加速させて、3か年計画の最終年度としての総仕上げに取り組みます。

(2) 東日本大震災からの復興支援・風評被害の払拭

東日本大震災からの復興、原発事故による風評被害の払拭に向けて、引き続き、被災地のニーズに即した取り組みを実践します。

(3) 経営基盤の確保と全農グループ全体としての取り組み

投資・出資案件の積極的な展開をはかるとともに、損失リスクに耐える経営基盤の確保に取り組みます。

また、子会社等との戦略共有を強化し、全農グループ全体としての事業運営・経営管理に取り組みます。

事業別実施具体策

米穀農産事業

米の需給が緩和基調にある中、播種前等の事前契約や中食・外食の実需者ニーズに適した多収穫品種等の契約栽培の拡大など大手実需者向けの販売力強化、冷凍米飯や無菌包装米飯など付加価値をつけた精米販売の拡大、インターネット通販や小口業務向け販売など消費者接近型事業の強化に取り組みます。

生産・集荷面では、主食用米のフレコン・庭先集荷の拡充、広域集荷・物流基盤の整備など多様な生産者ニーズへの対応と飼料用の取り扱い強化に取り組みます。

麦類・農産事業では、輸入品からの切り替えなど国産需要の確保とともに、国産大豆の反収向上など生産支援に取り組みます。

園芸事業

重点卸売市場、グループ会社等と連携した、実需者ニーズにもとづく

産地への生産提案・支援や契約取引など、マーケットインを起点とした事業への転換を加速します。

輸入品が一定のシェアを占めるカット野菜・惣菜需要については、原料野菜の供給対策として、(株)グリーンメッセージ(27年5月工場稼働予定)への安定供給や県域を越えたブロックごとの実需者開拓を進めます。また、グループ会社や提携先企業を通じて、カット野菜やチルド野菜など加工事業への積極展開をはかります。

労働力不足への対応として、機械化一貫体系の提案や農作業受委託の取り組みなどを強化するほか、新たな物流チャネルの検討など低コスト流通の取り組み強化、集出荷施設の統廃合や広域共同利用施設の設置など県域物流の再構築をはかります。

営農販売企画

農業生産基盤の維持・拡大に向けて、大規模営農における経営モデルの水平展開など省力・低コスト・生産性向上に資する営農関連技術の開発・普及に取り組みとともに、飼料用米の生産流通対策の確立をはかります。また、地域生産振興の促進に向けた人材育成プランの策定と営農支援体制の整備に取り組みます。

JAグループの総合力発揮に向けて、TACの活動の高度化をはかり、マーケットインを起点とした生産と

販売のマッチング、大規模担い手経営体への事業対応を強化します。

国産農畜産物の販売力強化では、全農グループ直販会社5社と連携した売上拡大、海外常設売場の確保等による国産農畜産物の輸出拡大を進めます。

生産資材事業

トータルコストの低減に向けて、土壌診断にもとづく効率的な施肥や鉄コーティング湛水直播栽培など、省力・低コストに資する技術・資材の普及、物流の広域化による低コスト流通体制の構築に取り組みます。また、海外山元との提携強化、独占販売権・長期契約を活用した肥料原料の安定調達、防除課題を解決する新農薬の共同開発など、購買力の維持・強化をはかります。

多様化する生産者のニーズに対応して、肥料の満車・フレコン直送、担い手直送規格農薬など担い手への個別対応の強化に取り組みます。

畜産事業

国産畜産物の販売力強化に向けて、産地基盤を活かした特徴商品の拡大や外食店舗の多店舗化等消費者に直接訴求する販売事業の強化、「全農和牛」の輸出を拡大します。

生産面では、生産性を向上させる革新的な技術の開発・普及をすすめるほか、海外現地法人を活用した集荷・保管能力の拡充、海外サプライ

ヤーとの提携強化等をはかり、飼料原料の調達力を強化します。

生活関連事業

地域のくらしへの貢献に向けて、ライフライン店舗対応やネット宅配事業による買い物支援の強化、コンパクトセルフSSの設置促進など地域ニーズに応じた商品・サービスの提案を拡充します。

国産農畜産物の販売拡大では、国産原料にこだわった全農ブランド商品の開発・販売チャネルの拡大、Aコープ店舗に直売所を併設した新業態店舗の拡大を進めます。

また、SSの統廃合を含めたセルフSSの設置促進や販促活動強化などにより燃料油の取扱シェアの拡大、総合エネルギー事業の確立に向けて、電力小売事業の取り組みを進めます。

経営計画

取扱計画

営農・生産資材事業の取り扱いが増加するものの、米の販売価格や燃料価格の低下等により、全体の取扱高は26年度計画から減少し、4兆7、600億円とします。

収支計画

取扱高が26年度計画と比較して減少することなどから、事業総利益は26年度計画を下回る水準となります。

す。一方、事業利益は事業管理費の削減により26年度計画並の水準を維持し、特別損益が改善するため、当期剰余金は26年度計画を上回る57億円とします。

剰余金処分

剰余金処分は、利益準備金12億円、任意積立金33億円、出資配当23億円（2%）を計画します。

財務計画

(1) 自己資本計画

準備金・積立金は、任意積立金の取り崩しによる減少11億円、利益準備金12億円および任意積立金33億円の増加を計画します。また、繰越剰余金は23億円とします。

(2) 施設等取得・処分計画

販売力強化に向けた精米工場、米穀集出荷施設などの設置、事業拡大に向けた葬祭場などの設置および、JA-SSの運営力強化のための投資などを計画し、施設等取得計画を224億円とします。

(3) 外部出資計画

太陽光発電支援事業および購買力強化のための出資を計画し、72億円とします。

要員計画

事業環境に対応した要員体制を構築する観点から、28年3月末の職員数は、7、850名程度とします。

愛媛県本部 平成27年度計画

最重点施策

愛媛県本部では、中期3か年計画の最終年度となる27年度計画において、「トータルアグリッド事業」をさらに推しすすめ、販売に重点をおいた品目別ビジネスモデルの確立と産地基盤の維持拡大に取り組みます。

また、地域営農ビジョンの実現に向け、地域農業を支える担い手の確保・育成への支援に積極的に関わり、元気な産地づくりを実践します。生産面では、地域特性に合った新品種の導入拡大やブランド化など売れる農畜産物の産地育成、水田フル活用とトータルコストダウンの取り組みを推進し、生産者手取りの安定と担い手の確保をはかります。

流通・販売面では、企画販売・契約販売など多元的販売の拡大に関わり、「愛媛チーム」としての県域販売体制による販売力の強化をはかります。

購買面では、生産資材コストの低減に向けた新資材・新技術の普及拡大や環境保全対応の強化をはかると

ともに、JA総合物流体制の拡充を進め、さらなる物流の合理化と利便性の向上に取り組みます。また、生活関連事業を通じて、「県産農畜産物の販売拡大」、「環境に優しい」、「くらしの安全・安心」、「地域インフラ」を柱に、地域のくらしへの貢献に取り組めます。

耕種事業

（食糧部・営農販売部・生産資材部）

担い手の確保と所得向上をはかるため、ビジネスモデル品目を軸とした販売力の強化をすすめ、生産・資材・流通・販売コストの低減に取り組めます。特に、水田フル活用による農業生産基盤の維持・拡大をはかるため、TAC活動の拡充強化による裏作・転作作物の導入推進に取り組むなかで、新技術・新規品目の提案実証を積極的に行います。

また、「えひめの食」企画による広報、ふれあい活動等を展開し、消費者の豊かな食生活づくりを提案するとともに環境保全型農業を推進し、愛媛農業および愛媛県産農畜産物への理解と支援をはかります。

畜産事業

肉牛・肉豚生産者の経営安定と生産性向上対策を支援し、消費者に支持される高品質生産とブランド化による産地基盤の維持拡大に取り組めます。

また、JAならびに全農畜産グループが一体となった銘柄確立と販売力強化を進め、生産者の所得向上に取り組めます。

生活事業

高齢者や買物弱者対応など地域ニーズに対応した事業・品目の取り扱いを強化し、地域インフラとしての社会的使命・役割の発揮に努めます。

また、ネットシステムを活用した宅配事業や直販事業を拡大し、県産品を中心とした国産農畜産物の販売拡大につとめ、くらしの安全・安心と健康への貢献に取り組めます。

併せて、環境関連事業や石油・ガス等エネルギーの効率的供給に関わり、快適で環境にやさしい生活と、安心して暮らせる「地域くらし戦略」の実践支援につとめます。

総合物流

広域物流センターを中心にJA総合物流を構築し、「営農と生活を守る物流」の整備とコスト低減による事業競争力の強化に取り組めます。

グループ会社

J Aグループの会社として生産者・J A・消費者の期待に応えるよう、生産・加工・販売・購買・物流の各分野においてグループでの事業機能の向上をめざします。

また、愛媛県本部グループ会社全社の健全経営を確立し、愛媛農業の振興支援に取り組みます。

事業別実施具体策

(1) 食糧部

① (株)ひめライスとの連携を強化し、県域生販一貫体制にもとづく「ひめライス」ブランドの拡販と定着をはかるため、買取販売を強化し、県内需要者・消費者のニーズに応える集荷量の確保に取り組みます。

② 需要に対応したJ A別・銘柄別作付を推進し、産地ブランド米・契約栽培等の企画販売米の拡大による生産者手取りの向上に取り組みます。

③ 水田フル活用に向けて、主食用以外の水田活用米穀および裏作・転作品目の導入を推進するとともに、省力技術、品質・収量向上対策、資材コスト低減対策に取り組み、トータル的なコストダウンを

はかります。

④ 平坦地域を中心とした「にこまる」の高品質・安定生産に向けた栽培体系の確立と認知度向上による需要拡大に取り組みます。

⑤ 全国一の生産量を誇るはだか麦を主体に、担い手を中心とした麦作の生産振興と品質向上および「ハルヒメボシ」への切り替えに取り組みます。

(2) 営農販売部

① 系統の総合力を結集して地域営農ビジョンの実践に向けた担い手への支援強化をはかるため「トータルアグリッド事業」を展開し、重点品目のビジネスモデル確立と産地強化に取り組みます。また、地域生産振興の実践を担うT A Cの活動強化と人材育成の支援を行います。

② 愛媛県オリジナル品種の産地化・ブランド化を進めるとともに、生産履歴記載対策による安全・安心で信頼される産地づくりに取り組みます。

③ 「愛媛チーム」として県域販売体制強化による市場への有利販売や提案型販売の強化による売り場確保と拡大に努め、顧客ニーズに対応した商品力の向上・コスト削減に取り組みます。

④ 拠点市場・全農青果センター等との連携を強化し、産地と実需者・消費者の結びつきを強める企画販売や行政とタイアップした輸出事業、加工業務用野菜の拡充など、多角的販売に取り組みます。

⑤ 主要量販店をはじめ既存取引先への供給拡充と併せてギフト対応新規取引先の開拓を進め、J A・担い手との連携を軸とした直販事業の機能強化に取り組みます。

⑥ 青果物の消費拡大・購入促進をはかるため、対面型消費宣伝活動の強化と「えひめの食」企画、「オレンジロード」による青果物全般の情報発信と、販売事業と連動した効率的な消費宣伝活動、消費者への効果的な産地アピールに取り組みます。

(3) 畜産部

① 系統畜産生産基盤の維持拡大をはかるため、肉豚19万5,000頭、肉牛3,865頭の取り扱いを目標に、消費者に支持されるブランドづくりと生産者の経営安定をめざした取り組みとしてトータルアグリッド事業を実践します。

② 農家経営の維持向上のために、J A西日本くみあい飼料(株)・J Aえひめアイパックス(株)との連携・強化をはかり、生産性向上と肉質

改善対策に積極的に取り組みます。

- ③ 安全・安心な伊予牛「絹の味」
「ふれ愛・媛ポーク」の認知度向上と消費拡大に努めるとともに、生産農場と販売先を結ぶマッチング販売を展開し、生産者の所得向上に取り組みます。

- ④ 生産者・JA・行政と一体となり、販売先・消費者に対する愛媛農業への理解醸成と地産地消の啓蒙活動を実施し、県域・地域ぐるみの産地支援体制の構築に取り組みます。

(4) 生産資材部

- ① 多様な担い手への営農支援の充実と省力化を含めたトータル的な生産費の削減をはかるため、低コスト・省力化に繋がる肥料農薬・生産資材・施設・農機の開発・普及に努め、生産基盤の維持拡大に取り組みます。

- ② TACと連携した「出向く営農」と、予約結集や購買店舗の活性化等による「出迎える営農」の展開により農家対応力の向上をはかり、的確な施肥防除技術に基づく企画提案と仕入れ購買機能の強化に努めます。

- ③ 新品・中古・部品・修理整備事業のバランスをはかり、JAの効

率的な事業体質の構築を支援し、農機事業の収支改善を進めます。また、西日本部品センターとの連携強化により、一層のサービス向上に努めます。

- ④ 施設・園芸資材事業における事業環境に対応するため、施主代行方式による事業強化と拡充に取り組みます。施設事業では、関係部署との連携をはかり、各種施設に対する提案活動の強化を行い、事業領域の拡大に努めます。住宅事業では、情報収集機能の強化をはかり、JA総合事業としての事業の再構築に取り組みます。

- ⑤ 販売資材の多様化するニーズに対応していくため、省力化・コスト低減に向けた提案活動の強化に取り組みます。段ボール事業においては生産体制の効率化を押し進めるとともに「全農唯一の直営工場」としての機能・優位性を最大限発揮し、高品質段ボールの低コスト生産・安定供給に努めます。

(5) 生活部

- ① JA支所購買店舗のYショップ化や移動購買車の導入を進め、ライフライン店舗の存続対策の実施とJA生活店舗事業の収支改善に取り組みます。

- ② 県産品農畜産物消費拡大運動に

積極的取り組み、地域農業の振興に寄与するとともに、国産農畜産物を主原料とした「エコーコップマーク品」や「全農ブランド商品」の取り扱いを強化し、国産農畜産物の安心・安全を消費者に届けます。

- ③ 環境関連事業の取り組み強化と、新エネルギー分野の事業化の検討を進め、地球の環境保全に積極的に取り組みます。
- ④ JA葬祭事業を支援するため、協議会活動の取り組みを強化し、葬祭関連事業の取り扱い強化、葬祭事業の運営改善、施行技術の向上の取り組み等、協同活動の実践強化に取り組みます。

- ⑤ 修正マスタープランによる老朽化SSのセルフ化・統廃合等の拠点整備提案、石油安定供給体制構築による地域ライフライン網整備促進、燃料油の取り扱いシェア拡大に取り組みます。

(6) 管理部

- ① コンプライアンス推進・リスクb管理実施計画に基づき、コンプライアンス意識の浸透・定着と4大リスクに加えて労働災害の削減と法令遵守を重点としたリスク管理に取り組み、コンプライアンス態勢の維持・強化をはかります。

- ② 事業部との事業検討会等を通じ

表2 愛媛県本部 平成27年度 取扱計画

(単位：億円、%)

事業名	年度	27年度計画	26年度計画	前年比
米 穀 事 業		30	37	82
営 農 販 売 事 業		438	460	95
畜 産 事 業		202	205	98
生 産 資 材 事 業		178	180	99
生 活 関 連 事 業		111	129	86
合 計		959	1,011	95

- ⑤ 各事業部門における事業施策の実現に向け、営業力・企画力向上
- ④ J A 物流センターの機能強化をはかるため、J A グループで低コスト供給体制を構築し、総合物流のさらなる整備・実践に取り組みます。
- ③ J A 意見交換会やJ A 巡回等を通じて会員の意思を事業運営に取り入れ、満足度向上をはかります。
- ② J A 物流センターの機能強化をはかるため、J A グループで低コスト供給体制を構築し、総合物流のさらなる整備・実践に取り組みます。
- ① 収支管理・投資管理・要員管理を強化し、事業計画の達成に取り組めます。また、グループ会社管理を継続し、健全経営の確立に向けた指導・支援に取り組みます。

表3 グループ会社 平成27年度 売上高計画

(単位：百万円、%)

会 社 名	27年度計画	26年度計画	前年比
(株) え ひ め 飲 料	23,377	29,007	81
J A えひめアイパックス(株)	4,084	4,104	100
J A えひめフレッシュフーズ(株)	3,484	3,275	106
(株) ひ め ラ イ ス	4,086	5,156	79
J A えひめエネルギー(株)	2,589	2,953	88
(株) え ひ め フ ー ズ	798	868	92
J A えひめ物流(株)	7,070	6,880	103
合 計	45,488	52,243	87

- ⑥ J A ・組合員に対し県本部グループ事業への理解向上と、広く消費者に対し県産農畜産物の消費拡大に向けた情報提供活動を展開します。また、TPPについては、国会決議の遵守を求める取り組みを関係団体と連携し展開します。
- ⑤ 高齢化等による生産基盤の弱体化
- ④ J A 総合物流の再構築による物流コストの低減、⑤ 生活関連品の普及拡大や高齢化に対応した事業展開、⑥ 事業管理費の削減等により、27年度当期利益は26年度計画の115%となる4、400万円の計画とします。
- ③ J A 意見交換会やJ A 巡回等を通じて会員の意思を事業運営に取り入れ、満足度向上をはかります。
- ② J A 物流センターの機能強化をはかるため、J A グループで低コスト供給体制を構築し、総合物流のさらなる整備・実践に取り組みます。
- ① 収支管理・投資管理・要員管理を強化し、事業計画の達成に取り組めます。また、グループ会社管理を継続し、健全経営の確立に向けた指導・支援に取り組みます。

経営計画

取扱計画（事業分量）

および生産資材や生活関連品の需要停滞の状況はあるものの、「トータルアグリッド事業」の継続的展開により、産地育成の取り組みや多元的販売の体制強化をはかることにより、27年度取扱高（総供給販売高）は、26年度計画の95%となる959億円を見込みます。

収支計画

厳しい事業環境の中、事業収益は減少するものの、①産地育成や地域の担い手確保、②「愛媛チーム」力を発揮した県域販売体制の強化、③新技術普及等による生産資材のコスト低減、④J A 総合物流の再構築による物流コストの低減、⑤生活関連品の普及拡大や高齢化に対応した事業展開、⑥事業管理費の削減等により、27年度当期利益は26年度計画の115%となる4、400万円の計画とします。

投資計画

事業所の設備更新や施設老朽化対策、消費電力削減のための設備投資およびシステム更新のための情報システム開発を計画します。

要員計画

事業環境に対応した適正な要員体制をはかることとし、会内要員は27年度期末で180名とします。

機構改革と人事異動

J A全農えひめは、4月1日付けで平成27年度の機構改革と定期異動を実施しました。

機構変更では、花卉センターでの花卉種苗事業を平成26年度末をもって終了し、花卉センターを機構から削除しました。

この結果、**平成27年度は、6部16課13事業所**となります（平成27年度機構図はP.11に掲載）。

人事異動は、平成27年度期首**職員数224人中、異動者総数は73名**です。（課長・審査役以上の異動はP.9のとおり）

人事異動（平成27年4月1日付）※審査役以上

氏 名	新 任 部 署	旧 任 部 署
小越 慎介	（参事）県本部長	（審議）副本部長 管理・畜産・生産資材・生活担当
竹村 靖	（審議）副本部長 管理・生活担当	（監）管理部長
関岡 光昭	（審議）副本部長 食糧・営農販売・畜産・生産資材担当	（審議）副本部長 食糧・営農販売担当
高井 雄二	（監）管理部長	（監）生産資材部長
嶋田 浩志	（監）畜産部長	（監）畜産販売課長
石川 忠司	（監）生産資材部長	（監）畜産部長
宇都宮 誠	（監）生活部長	（審）生活資材課長
川崎 広範	（審）企画課長	（審）営農振興課長
岡田 浩人	（審）総務課 共通庶務専任課長	（審）公益財団法人えひめ地域政策研究センター 出向
平岡 正行	（審）営農振興課長	（審）営農振興課 （課長事故代行者）
堀岡 茂	（審）野菜花卉課長	（審）段ボール工場販売課長
玉井 純	（審）畜産販売課長	（審）南予販売センター所長
大西 弘之	（審）肥料農薬課 J A えひめ物流株式会社 中予地区駐在所 駐在	（審）肥料農薬課
和泉 修	（審）施設農住課長	（副審）施設農住課 （課長事故代行者） 一級建築士事務所兼務
元岡 克徳	（審）一級建築士事務所所長	（審）一級建築士事務所
室賀 敬二	（審）段ボール工場販売課長	（審）野菜花卉課長
矢野 貴之	（審）段ボール工場製造課長	（審）段ボール工場製造課 （課長事故代行者）
崎山 一誠	（審）生活資材課長	（審）生活資材課 （課長事故代行者）
水本 益広	（監）J A えひめアイパックス株式会社 出向	（監）段ボール工場販売課 段ボール工場製造課 兼務 製販一体管理専任課長
馬場 信也	（監）J A えひめエネルギー株式会社 出向	（監）野菜花卉課
白石 啓司	（審）J A えひめ物流株式会社 出向	（審）段ボール工場製造課長

【表の見方】職能資格呼称等は略称表記しています。

（参事）＝参事役、（審議）＝審議役、（監）＝監理役、（審）＝審査役、（副審）＝副審査役

県本部長 就任あいさつ



「パッケージ提案」を実践し 元気な産地づくりを

県本部長 小越 慎介
こごえ しんすけ

現在、農業を取り巻く状況は「農林水産業・地域の活力創造プラン」に端を発し、農協改革に向けた農協法の改正、日豪EPA合意、そしてTPP交渉と根本から揺り動かされています。

このような中、全農は「元気な産地づくりと地域の暮らしへの貢献」「国産農畜産物の販売力強化」を事業目標に取り組んでおり、愛媛県本部は、生産・販売・購買一体事業をベースに「トータルアグリード事業」を推し進めてきました。

平成27年度は「中期3ヵ年計画」の最終年度であり総仕上げの年となります。販売に重点をおいた品目別ビジネスモデルをしっかりと確立させなくてはなりません。

そのためにも生産から販売までトータルでの提案「パッケージ提案」を実践していく必要があると考えています。

また、土地はあっても耕作する人がいない現実が県下各地で叫ばれている現状では、地域農業を支える担い手の確保・育成への積極的な支援が必要です。

簡単ではありませんが、部会組織、集落営農組織、大規模生産者、JA出資型農業生産法人、農業生産法人などさまざまな形態に目線を向けていきたいと考えています。

愛媛県本部では、「トータルアグリード事業」を耕種・畜産・生活の3つに分類して対応していきます。

耕種事業では、TAC活動をさらに拡充強化することとビジネスモデル品目を軸とした販売力の強化、水田フル活用による農業生産基盤の維持・拡大に取り組んでいきたいと考えています。また、農畜産物への理解を深めるために「えひめの食」企画・4月14日「オレンジデー」などの消費宣伝活動を充実していきます。

畜産事業では、伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ボーク」のブランド力向上とマッチング販売への取り組みを行い、農家所得の安定を確立していきたいと考えています。

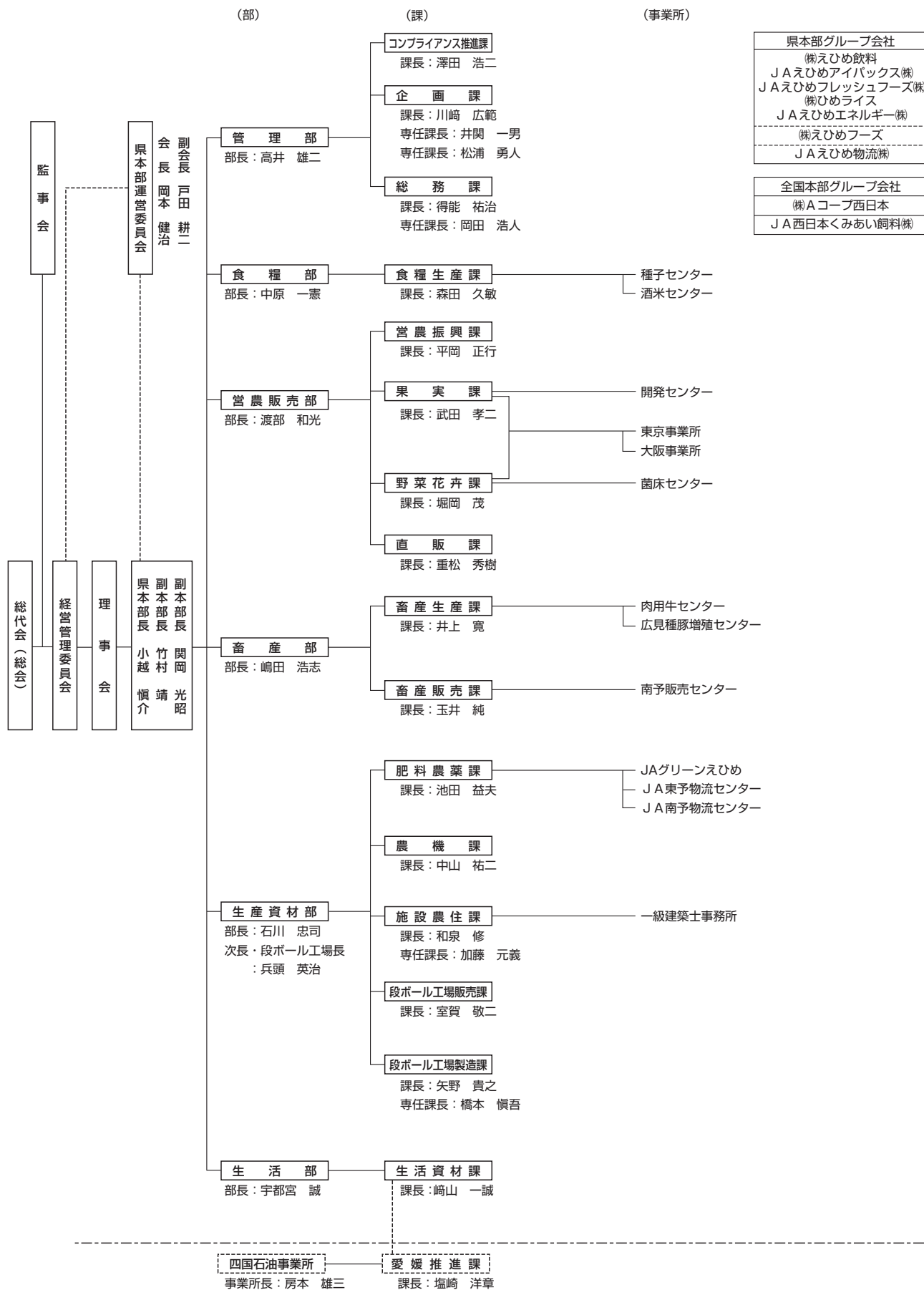
生活事業では、買い物に困る地域が増えていることへの地域インフラ対策に取り組んでいきます。国産農畜産物の消費拡大を進めていくために国産農畜産物を主原料としている「エコーマーク商品」「全農ブランド商品」「県産加工品」の取扱い拡大を進めていきます。

脆弱化してきている生産基盤の強化と県域としての販売力の強化を生産者・JA・全農が一体となつて進めていかなければなりません。県本部グループ会社の役員が、現場に出向き、私たちの取り組みを生産者・消費者の皆様にしつかり浸透していくことが肝心です。

このような目標を達成できる行動力をもった事業連となれるよう引つ張っていく所存であります。皆様のご協力ご助言をよろしくお願いいたします。

全農愛媛県本部 2015年度（平成27年度） 機構図&ライン管理職等配置

平成27年4月1日現在（6部16課13事業所）



品 名	規 格	推進 価格 (税抜)	消費 税	税込 価格
みかん・いよかん ジュース	ケース (1ℓ×8本)	1,926	154	2,080
つぶみかん・いよかん ジュース	ケース (1ℓ×8本)	2,759	221	2,980
みかん・いよかん ジュース (缶)	ケース (250g×30本)	2,241	179	2,420
愛媛の味わい柑橘100	ケース (1ℓ×8本)	1,963	157	2,120
愛媛の不知火50	ケース (1ℓ×6本)	2,000	160	2,160
愛媛の特煎茶	ケース (500ml×24本)	2,380	190	2,570

ジュースの愛用運動は
8月末まで、お茶は12月
末までの期間限定となっ
ています。今年度は計
35万ケースを目標に取り
組めますので、ご理解と

この運動は、県内産主
要農畜産物の消費拡大に
より、地域農業の振興と
ともに、良質で安全な県
産品の愛用を進め県民の
健康増進をめざす「愛媛
県産農畜産物加工品消費
拡大運動方針」を受けて
毎年取り組んでいるもの
です。

JAグループ愛媛
は、今年も4月1日か
ら、『えひめみかん・
いよかんジュース・お
ひめ主催』を実施しています。

茶等愛用運動」(JAグループ愛媛
農畜産物消費拡大推進本部・県内各
JA・JA愛媛中央会・JA全農え
ひめ主催)を実施しています。

「えひめみかん・いよかんジュース・
お茶等消費拡大・愛用運動を展開！」

ご協力をお願いいたします。

◆今年度の変更点

取扱商品は、「愛媛なつみかん50」
に代えて、「愛媛の不知火50」が新
たに加まりました。また、今年度は
「愛媛の柑橘搾りセット」の取り扱
いはありません。

【商品特徴】

① えひめみかん・いよかんジュース
愛媛の元気な太陽を浴びて育った
温州みかん和伊予柑の果汁をブレ
ンドした飲みやすく、体にやさしい果
汁100%ジュースです。
1ℓペットと250g缶がありま
す。

② えひめつぶみかん・いよかん
ジュース
愛媛産の温州みかん和伊予柑の果
汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を
加えた、普通のジュースでは味わ
えない飲む「果物感覚」の果実分
100%ジュースです。

③ 愛媛の味わい柑橘100
愛媛県産の不知火・いよかんを主
体に柑橘果汁を贅沢にブレンドした
爽やかな味わいのジュースです。1
ℓペットボトル。

◆新商品の「愛媛の不知火50」



④ 愛媛の不知火50
愛媛県産「不知火」だけを使用し
た果汁50%飲料で、濃厚な甘味とほ
どよい酸味が特徴です。1ℓペット
ボトル。

⑤ 愛媛の特煎茶
愛媛県産茶葉を100%使用し、
心地よい苦味とさっぱりした後味の
緑茶です。食後やスポーツの後、焼
酎等の緑茶割りとしてご利用いた
だけます。500mlペットボトル。

いずれの商品も、例年と同様に数
量限定で取り扱っています。運動期
間中でも品切れの際には販売を終了
しますので、早めのご注文をお願い
します。

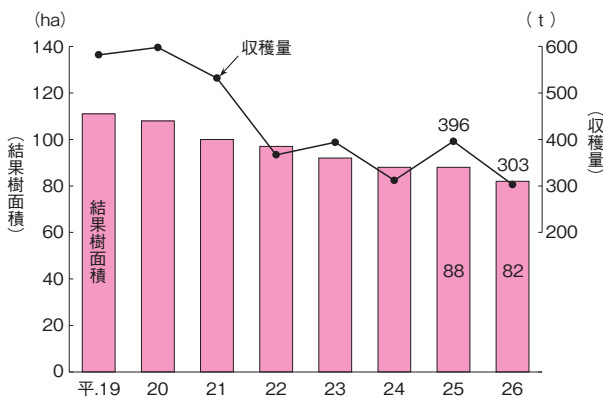
毎年県産品として県内外への贈答
品として大変好評であり、今年も
贈答需要に対応できるよう宅配も受
けつけています。詳しくは最寄りの
JAにお問い合わせください。

統計BOX

びわの収穫量は全国第4位！

— 平成26年産びわの結果樹面積、収穫量及び出荷量調査結果から —

図1 びわの結果樹面積及び収穫量の推移(愛媛県)

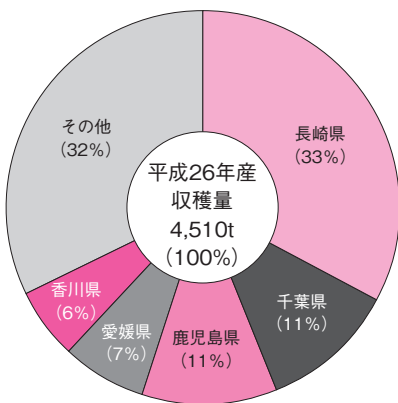


全国、愛媛県ともに
収穫量は減少

愛媛県は、「みかん」「いよかん」「くり」など生産量が全国上位に位置する果実が多くありますが、古くから「びわ」の栽培も盛んに行われており、全国に誇れる果実のひとつです。そこで今月は、びわの生産推移についてみていきます。

平成26年産びわの全国の結果樹面積は1,450 haで、前年産に比べて40 ha (3%) 減少しました。収穫量は4,510 tで、果実肥大期の低温や少雨のため果実の肥大が抑制

図2 びわの都道府県別収穫量割合



上位4県で収穫量の約6割を占める

都道府県別の収穫量は、長崎県が1,470 t (全国シェア33%)と

されたこと等から、前年産に比べて450 t (9%) 減少しました。愛媛県の結果樹面積は82 haで、労力不足に起因する規模縮小や老木化に伴う廃園等により、前年産に比べて6 ha (7%) 減少しました。収穫量は303 t、出荷量は255 tで、前年産に比べてそれぞれ93 t (23%)、81 t (24%) 減少しました。これは、寒波の影響により着果数・結果数が減少したことに加え、春先にかけての低温の影響により幼果期における生育が抑制されたためです(図1)。

愛情たっぷりびわで季節感を

びわは、とてもデリケートな果実で、葉と擦れたり枝にぶつかるとすぐに傷みができてしまいます。このため、生産者の方は、実が小さい頃から慎重に袋をかぶせ、成熟するまで大切に育てます。びわは上品な甘みと程よい酸味の調和が取れた初夏の訪れを感じさせてくれる果実です。皆さんも季節感を味わってみてはどうでしょうか。

果実は、ビタミン、ミネラル、食物繊維等が豊富で、国民の豊かな食生活と健康を維持する上で非常に重要な役割を担っています。今後、消費者が求める新鮮で美味しい国産果実を安定的に供給するためには、多様化するニーズに的確に対応した生産・販売体制を確立することが重要です。

中国四国農政局
松山地域センター農政推進グループ



野菜ソムリエに挑戦 奮闘記

私が「野菜ソムリエ」の資格に出会ったのは2005年の夏でした。当時は、「日本ベジタブル&フルーツマイスター協会」の「ジュニア・ベジタブル&フルーツマイスター」という名称で、松山で初めての講座でした。

「ベジタブル&フルーツマイスター」って何だろう？ 野菜は嫌いじゃないし、店（みなと食堂）のメニューにも活かそう…と、受講料は高いけど申し込みました。

1期生は30数名。松山市内の講座へ数回通い、野菜や果物を多角的な視点で記したベジフル・カルテなるものや、レシピを画像付きで提出、筆記試験もありました。講座の内容は思っていたよりも多岐にわたり、普段勉強らしいことをしていない私は覚えるのに必死でした。

周りの方はパソコンで提出物を作成し、画像もきれいに収めてありました。私は手書きで、画像は現像写真を張り付けていました。パソコンなど一生縁

がないだろうと思っていたので、この時は正直これじゃだめだな…と思いました。でも試験の合格通知が届いたら、そんな大変だったことも忘れてしまっていました。

資格取得から約1年、当協会の愛媛での活動基盤「ベジフルコミュニティえひめ」（以下「コミュニティ」）の発足集会がありました。自己紹介で、色々な職種や年代の方がいて、さらに次のステップの中級・上級へと挑戦されている方の存在を知り、私も挑戦してみようか…と思い始めました。

2006年11月から3ヶ月間、月に1回1泊2日、大阪での受講で、2月に試験。手書きで写真張り付けの提出物が変わりません。この時の試験は衝撃的でした。テキストにも、講座でも学ばなかった言葉も出題され、知らない・わからないことが多かったのです。帰りのJRではがっくりと落ち込んで、なんでこんな思いしなくちゃならないんだろう…泣きそうでした。しば

松岡 恭子

KYOKO MATSUOKA

1955年2月13日、旧北条市生まれ、松山市在住。松山北高等学校、松山東雲女子短期大学英文科卒業。全日本空輸旅客乗務員室勤務。退職後結婚、家業・みなと食堂を営み、主婦業をこなす。2005年ジュニア野菜ソムリエ・2007年野菜ソムリエ（日本野菜ソムリエ協会認定）、2013年ジュエルフルーツクリエイター（村上しずかジュエルフルーツインスティテュション認定）取得。資格を活かして、果物や野菜の魅力を広く伝え、消費拡大を図る。フルーツカッティングの伝道師としても活躍中。

他、調味料ジュニアマイスター・ジュニア食育マイスター・カレーマイスター（日本野菜ソムリエ協会認定）。有限会社マツオカ 非常勤役員。調理師。NHK文化センター松山教室、SAISAI クッキングスタジオ（今治市さいさいきて屋内）講師。出張講座も随時受付中。

◆ベジタス松岡フルーツダイアリー
<http://ameblo.jp/vf-minato>



▲初夏のフルーツ、メロンでは皮が表情豊かなスワンの器に変身する

らくして届いた結果は不合格でした。このままでやるわけにはいかない!! 家族に、パソコン買う!! と、宣言。なんで?? と言われました。知らんこと知りたい!!

使い慣れていないパソコンで、恐る恐る検索ばかりをしていました。その成果のおかげで次の筆記試験の1次は合格。2次はプレゼンテーション。プレゼンって何?? という程度の知識でしたから、これも1回落ちて2度目で

合格。3次試験は協会理事長と3〜4名のグループ面接で、やっとやっと合格。2007年の11月、認定証をいただきました。

愛媛県人では、初級の「ジュニア・ベジタブルフルーツ&マイスター」から中級にあたる「ベジタブル&フルーツマイスター」の資格を取ったのは私が3番目でした。「コミュニティ」ではイベント・リーダーとして料理教室を任せられたり、代表の役割を与えられ

「野菜ソムリエ」の資格が私の人生を変えたと言ってもいいでしょう。50歳を過ぎてからの「野菜ソムリエ」挑戦は他の方に希望を与えたのではないかと自負しています。仲間との繋がりが、から、「ジュエルフルーツクリエイター」にもなれたのです。パソコンやカメラもしっかりと使えるようになりました(笑)。出会った方々とはブログやフェイスブックでお付き合いが続いています。資格取得でも趣味でも、好きで続けられて友達ができるっていいですね。

今回は、「野菜ソムリエ」に関連して、調味料・食育・カレーなどの知識を色々な場面で活用しているお話をさせていただきます。



▲2時間のフルーツカッティング講座で初めての方も素敵なジュエルフルーツが完成! さいさいクッキングスタジオで講師をする松岡さん

たりで、あたふたと必死でした。パソコンを使いこなせないと他の方に迷惑をかけるので、パソコン教室に通い、メールや文書作成が少しずつできるようになっていきました。

当協会は2010年4月、「日本野菜ソムリエ協会」となり、資格の名称は「野菜ソムリエ」となりました。多くの方と出会い、助けていただき、「コミュニティ」での仲間はかけがえのない繋がりとなりました。代表を退いてからも数々の「コミュニティ」イベントに参加し、個人的にも「野菜ソムリエ」の松岡恭子として活動させていただいています。

●系統経済事業意見交換会

農業者の所得向上や系統経済事業の推進に向け意見交換

J A全農えひめは、県内J A代表者の声を事業運営に反映させようと、2月18日、J A愛媛で、平成26年度第2回「系統経済事業意見交換会」を開きました。

会議には、県内J Aの経営管理委員会会長、代表理事組合長・理事長のほか役員、全農本所から山岸嘉春常務、愛媛県本部から岡本健治運営委員会会長と部長以上の幹部職員、グループ会社の社長などが出席。事業概況と27年度事業計画について説明後、意見交換を行いました。

J A代表者からは、「農業者の所得向上につながる対策を」「農作業支援の取り組みについてはありがたい」「愛媛チームとして温州みかんの対策を考えねばならない」「生産資材コストの低減が見える形で」といった全農・J A全農えひめの機能発揮への意見や事業別の要望、「トータルアグリード事業」の実践に期待する声などが出されました。

全農・J A全農えひめからは、「J Aグルー



プの自己改革として、農業者の所得向上に向けプロダクトアウトからマーケットインへの事業転換、トータルコスト低減、多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応に取り組む」「トータルアグリード事業の着実な実践、TACの活動など出向く営農・営業を通じて、事業の見える化を進めていく」など、J Aと連携し農業基盤を守り、元気な産地づくりや農業・事業活性化に取り組む考えを示しました。

●愛媛県TACパワーアップ大会

最優秀賞に片山幸太さん（J Aひがしうわ）

J A全農えひめ営農振興課は、2月9日松山市のえひめ共済会館で、TAC（地域農業の担い手に出向くJ A担当者）の活動強化・レベルアップに向けて、「愛媛県TACパワーアップ大会」を開きました。

同大会は、県内TAC活動の優良事例を広く紹介するとともに、表彰することでTAC活動のレベルアップとモチベーション向上をめざし昨年からの開催しており、今回が2回目。県内J AのTAC関係者など55人が参加しました。

大会では7 J AのTACが「農家所得向上につながる取り組み」をテーマに、1人15分の持ち時間で活動事例を発表。J A全農えひめ、愛媛県、J A愛媛中央会、J A愛媛県信連など7人の審査員が、書類審査と当日の発表による総合点で審査。最優秀賞には、「J Aひがしうわ宇和普通作部会における酒米『しずく媛』の取り組みについて」と題して発表した片山幸太さん（J Aひがしうわ）が選ばれました。

片山さんは、米価下落傾向の中、若手担い手農家などからの「経営の安定を図りたい」という要望を受けて、価格が安定し契約栽培で経



▲最優秀賞を受賞した片山さん（右）

営計画の見通しが立ちやすいなどの理由で酒米「しずく媛」に着目。J AとJ A全農えひめのTACや関係機関が一体となった推進により、平成26年産「しずく媛」の新規作付3戸を含め部会全体で12戸が栽培し、面積を前年比139%、J A集荷量も同162%と大きく伸ばしたことや、新規作付3戸の所得を試算すると、主食用コシヒカリ1等に比べて10aあたり約3万円の所得向上につながる点などが評価されました。

このほか、優秀賞には、高橋諒さん（J Aうま）、田中拓也さん（J Aおちいまばり）が選ばれました。

●地産地消体験ツアー～原木椎茸・いちご体験コース 原木椎茸といちごの美味しさを満喫！

えひめ愛フード推進機構とＪＡ全農えひめ、愛媛県椎茸同志会、ＪＡ愛媛野菜生産者組織協議会などは、２月１５日大洲市で、「親子で学ぼう！地産地消体験ツアー原木椎茸・いちご体験コース」を実施しました。

同ツアーは、親子で見て、触れて、食べる体験を通して、愛媛産農産物の魅力や地産地消の意義を学び体感してもらおうと企画したもので、今回は親子７組２２人が参加しました。

大洲市菅田町では、県椎茸同志会の成高王洋会長などから、原木椎茸の特徴、栽培法や苦勞について説明を受け、原木に穴をあけたり、植菌作業、収穫など一連の作業を体験。参加者は、大きな椎茸を見せ合いながら、「バター焼きや鍋で食べようね」「こんなにあるので教わったように冷凍保存して使いたい」と袋いっぱい椎茸を抱えてうれしそうに話していました。

昼食では、同志会の有志で組織する「げんぼ



く５５（ゴーゴー）会」の女性部員が調理したタタキやしゃぶしゃぶ・カレー・ピザなど料理９品を食べて原木椎茸の美味しさを満喫。女性部員に調理法やコツを教わったり、参加者が感想を発表して生産者と交流しました。

一行は、いちごの収穫、ＪＡ愛媛たいきの野菜集出荷場と直売施設「たいき産直市 愛たい菜」の見学などを楽しみました。

●土壌診断研修会 土壌診断結果を活用した営農指導を！

ＪＡ全農えひめ肥料農業課は、２０１５年が「国際土壌年」ということもあり、作物生産の基本である土づくりと土壌診断に基づく適正施肥を普及・推進していくため、２月６日、ＪＡ全農えひめ農業技術センターで「愛媛県ＪＡ土壌診断研修会」を開きました。

研修会には県内７ＪＡの営農指導員２５人が参加。県内の土壌実態と課題を踏まえ、土壌診断の重要性やポイント、診断結果を伝える処方箋の活用方法を学びました。

研修では、ＪＡ全農えひめの担当者が、「土壌とは生産物と同様に自然からの贈り物であり、次世代に受け継いでいかなければならない。そのためには土壌分析により土壌を把握する必要がある、その結果に基づく土壌改良・適正施肥が不可欠である」と強調。土壌分析結果を生産者に分かりやすく説明するために分析項目の基礎知識を学ぶとともに、県内の作物別の土壌診断結果の傾向と課題、処方箋による各ＪＡの指導事例などを紹介したほか、診断結果をもっと効果的に活用するために「農家と常日頃話し合い、各農家のクセや圃場状況を事前に調べて



おく必要がある」とアドバイスしました。

参加者は、「土壌診断の重要性を再認識した」、「農家に自信を持って処方箋の説明ができるようになった」などと好評で、参加者アンケートでは約８割が「この講習会を受けて自分達でもＪＡ内部や部会員の土壌診断研修の実施が可能」と答えています。

肥料農業課では、今後も実技等も交えて土壌診断技術向上に向けた研修会を開催し、農産物の高品質安定生産と元気な産地づくりに貢献していきます。

愛媛県産「にこまる」のテレビCMを放映し、品種名と美味しさPR

愛媛県米麦振興協会とJ A全農えひめ、えひめ愛フード推進機構は、愛媛県産米「にこまる」の認知度向上と販売促進を図るため、テレビCM（15秒）を作成し、4月から放映を開始しました。

CMは、「にこまる」というお米の名前を覚えてもらうため、覚えやすくシンプルなメロディのオリジナルソングにのせて、男の子がおいしそうにあったかご飯を頬張ると、口の中でCGのキャラクターが唄って、踊っているという設定。

オリジナルソングは、「にこまる」の特徴・ネーミングを意識して、歌詞に「笑顔、まるまる、ふっくら、もっちり」といった特徴を入れました。「笑顔がにこにこ にこまる～♪お米まるまる にこまる～♪ふっくら もっちり 愛媛県産にこ



まる～♪」というもので、CMの最後は男の子の「おかわりー!!」という元気な声で締めています。

J A全農えひめ食糧部は、CM等を通じて「にこまる」ブランドの確立に取り組みます。

●バレンタインデーとホワイトデーイベント オレンジロード&愛媛柑橘をPR!!

愛のオレンジロード」キャンペーンに取り組むJ A全農えひめ果実課は、4月14日のホワイトデーに向けて、2月14日の「バレンタインデー」にエミフルMASAKIで、3月14日の「ホワイトデー」には松山空港で、愛媛いよかん大使らが伊予柑やせとか・デコボンなど旬の愛媛県産柑橘をPRしました。

J A全農えひめは、4月14日の「オレンジデー」まで、愛の記念日ごとに、“愛のシンボル”であるオレンジ＝旬の柑橘を贈り合って愛を育んでもらう「愛のオレンジロード」キャンペーンを展開し、全国一の生産量を誇る愛媛産柑橘のPRと消費拡大に取り組んでいます。

2月14日には松前町のエミフルMASAKIで、床に「オレンジロード」のロゴマーク入りフロアマットを敷いた売り場では、愛媛いよかん大使が、「伊予柑」「せとか」「甘平」の試食を勧めながらリーフレットを配布し、品種特徴やオレンジロードの取り組みをアピールしました。試食した方は、「甘い」「甘平は初めて食べたけど美味しい」と品種の食べ比べを楽しんで、好みの商品を買っていました。

3月14日には、(株)えひめ飲料の「ポンジュー



▲2月14日のエミフルMASAKIでのPR活動



3月14日の松山空港PRイベント

ス蛇口」も設置された松山空港の2階出発ロビーで、愛媛いよかん大使が県内外の旅行客などに試食や試飲を呼びかけながらオレンジロードをPR。「甘くて美味しい。お土産にしよう」と買い求める方や、「ジュースの蛇口って本当にあるんだ」「すごい！ジュースが出る」とうれしそうに記念写真を撮影する方などで賑わいました。また、松山市のイオン松山店と松前町のエミフルMASAKIでも愛媛いよかん大使が店頭試食活動を行いました。

なんでもBOX

●(株)えひめ飲料

新感覚のつぶつぶドリンク「POMうっきうきつぶみかん」発売！

(株)えひめ飲料は、最後まで温州ミカンの粒のプチッとした食感が楽しめるつぶつぶドリンク「POMうっきうきつぶみかん」(350mlペットボトル)を4月6日全国一斉発売しました。

細かく砕いたゼリーの間に国産温州ミカンの粒をサンドする特別な製法を採用して粒の沈殿を抑え、容器全体に粒がフワフワ浮いた状態に見えるようにしました。ゼリーを細かく砕くことにより、最初から最後まで粒の食感を感じながら飲む「新食感」のつぶつぶドリンクに仕上げています。

(株)えひめ飲料の担当者は、「粒が浮いている見た目と最後まで粒が飲める美味しさ・楽しさを、商品名の『うっきうき』に込めており、甘くてやさしい味わいの新食感ドリンクを楽しんでほしい」と話しています。

希望小売価格は162円(税込)。



●第53回愛媛マラソン

『ふれ愛・媛ポーク』チームが力走しブランドPR

「第53回愛媛マラソン(湯ったりオレンジロード)」が、2月8日開催され、「ふれ愛・媛ポーク」生産者、JA全農えひめ職員や関係者など計35人が出場しました。

昨年に続き出場した「ほのぼの媛ポークランナーズ」は、生産者と関係者など21人が『ふれ愛・媛ポーク』のロゴマーク入りユニフォームで出場し、走る広告塔として、沿道で応援する

方々にPR。20人が制限時間内に完走しました。また、JA全農えひめからは14人が出場し、12人が完走、うち3時間を切った選手が3人と好成績をおさめました。

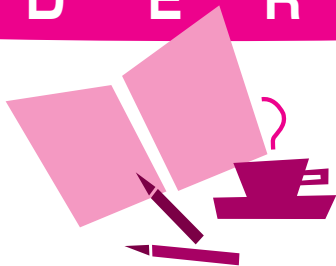
(株)えひめ飲料は昨年に続きみかんジュースを提供。レース途中に設置されたおもてなしコーナーで選手に渡され好評でした。



▲「媛ポークランナーズ」の選手



◀『ふれ愛・媛ポーク』応援旗を背に関係者は力走しました



●「愛媛いよかん」いい予感」イベントは、受験生にしたら少しでも「ホッ」とすると思うし、伊予柑のPRにはとても良いと思いました。

(四国中央市・天高 弘美さん)

●湯島天神の境内で合格の縁起物として愛媛いよかんを配布したり、寺小屋グループの取り組みなどを通じて、愛媛いよかんの注目度は着実に上がっていますね。今後もイメージアップと消費拡大を。

(今治市・村上 睦さん)

●松山の宮内さんが発見された「宮内いよかん」が全国的に有名になり喜ばれてとてもうれしく思います。注目度もますます上がり、イメージアップ、販売促進にこれからも頑張ってくださいネ！

(松山市・松本 恵子さん)

●毎号目を通して、JA全農えひめではいろいろなイベント、取り組みをしているんだと改めて思いました。

先日、さいさいきて屋の野菜売り場でプロッコリーを買おうと見てみると、たくさんのプロッコリーの中から「私を買って！」と呼んでいるプロッコリーがいくつもありました。山盛りの野菜の中から一つを選ぶのは至難の業です。私はいつも売り場でさまよっています(笑)。

(今治市・後藤 亜紀さん)

●プロッコリーが大好きです。今はまっている食べ方は、ゆでプロッコリーにチリソースとマヨネーズ。一株くらいペロリと食べられます。

(松山市・楠 裕子さん)

●JA西条の「春の七草」出荷量が100万バツク超えにビックリしました。七草はそろえるのが大変そう、期間も少ないのですごくいですね。これからも頑張ってください。

(四国中央市・石川 芳江さん)

●映画「食堂ゆすかわ」テレビニュースでも見ることができました。地元の人たちが協力し合っ(出演)映画ができたそうですね。今度、主人と食べに行きたいねと「言ってみないね」と言っていたところです。

(大洲市・沖中 さわえさん)

●毎号人気のようですが、エッセー今回も感動で読ませていただきました。できる方は何でもできるのですね。「家事をこなす主夫でもある」には二度感動です。(今治市・柳原 磯美さん)

●映画「食堂ゆすかわ」4月の女性部総会後にこの映画を上映していただくようになっております。

エッセーを拝読し、森監督の遊子川の人々に対する熱い気持ち伝わってきます。地元を愛する人の想いを伝えていただき、ありがとうございます。4月の総会の日を楽しみにしております。

その日は遊子川の人たちの気持ちのこもったトマを買えるのも楽しみの一つです。

(今治市・岡田 絹枝さん)

★編集部より：エッセーを執筆いただいた森幸一郎さんから、「食堂ゆすかわ」は、県内各所ならびに東京でも上映、好評いただきました。現在、「食堂ゆすかわ」に続く第3回作品「海にしゃぼん玉 飛んで」を制作中です」というお便りが届きました。新しい作品は、松山市三津を舞台に、優しく・切なく・美しいストーリーが心に響く純愛嬢産映画ということ。



で、4月19日に克蘭クインし、今年の秋頃完成予定ということ。お楽しみに。

※写真は、新作の第1回目のミーティングの様子。

●映画「食堂ゆすかわ」を読んで。「限界集落」つい先日テレビドラマがあった。こんな言葉が聞かれるようになったのはここ数年である。「過疎よりも極端な集落なのだろうか。次は集落跡」とならないように願っています。

「甘平」を作っています。県外の友達からも「おいしい！」と言ってもらえました。

(今治市・乾 律子さん)

今月のクイズ

平成26年産の「愛媛県産ヒノヒカリ」は食味ランキングで最高の特Aを獲得しました。4月から新たに制作したテレビCMを放映しているお米の品種名は？

【○○○○○】

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成27年5月18日(当日消印有効)

発表

「あぐり」6月号で発表します。

当選者発表

2月号の答えは「いい予感」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

大野 富生さん(内子町) 益崎 君枝さん(上島町)
渡部 美奈さん(東温市) 岡 葉子さん(八幡浜市)
藤田重紀子さん(今治市) 平家世利子さん(八幡浜市)
阿部 幸子さん(伊方町) 鎌田登久子さん(松山市)
相原 靖志さん(松山市) 大久保絵里さん(東温市)
黒田三恵子さん(西予市) 竹田久美子さん(四国中央市)

編集後記

★4月が、食のCM新し日キンとれは、るが「A」獲得「に」ら放お寄も

(正直)

NOW NOW

COOKING

今月の素材

グリーンアスパラガス



春芽は甘くて、根元までやわらか、
火通りが早く、調理もしやすい



▶(左) アスパラ豚肉巻蒸し、(右前) アスパラ黄身酢かけ、(右後) アスパラとササミの塩炒め

指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

アスパラ豚肉巻蒸し

〈材料・4人分〉	※1人あたり約287kcal
アスパラガス	6本
豚肉（薄切り）	12枚
ゴボウ	10cm
人参（中サイズ）	10cm
塩	少々
コショウ	少々
酒	50cc
白ネギ（みじん切り）	1本分
ゴマ油	大さじ1
酒	大さじ1
砂糖	大さじ2
濃口醤油	大さじ3
酢	大さじ1

〈作り方〉

- ① 小鍋にゴマ油を熱し、ネギをサッと炒め、④を加えてひと煮立ちさせて火を止め、「ネギソース」とする。
- ② アスパラガスは縦半分に切り、2等分する。ゴボウと人参は2～3mm角の千切りにする。
- ③ 豚肉に塩・コショウをして広げ、②の野菜を並べて巻く。
- ④ フライパンに③の巻き終わりを下にして並べ、酒を入れて蓋をし、中火で、火が通るまで蒸す。
- ⑤ 器に盛り、①の「ネギソース」を添える。

アスパラとササミの塩炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約114kcal
アスパラガス	8本
鶏ササミ	4本（約200g）
キクラゲ（乾）	2枚
人参	1/4本
卵	2個
片栗粉	適量
サラダ油	適量
ニンニク（みじん切り）	1かけ分
ショウガ（みじん切り）	1かけ分
酒	大さじ3
塩	少々
黒コショウ	少々

〈作り方〉

- ① アスパラガスは下部1/3の皮をむき、斜めに4等分に切る。ササミは筋をとり、薄くそぎ切りにし、塩・コショウをして片栗粉をまぶす。
- ② キクラゲは水にもどして食べやすい大きさに切り、人参は短冊切りにする。
- ③ フライパンに油を熱して、溶きほぐした卵を入れて、いり玉子をつくり、取り出す。
- ④ フライパンに油を熱して、ニンニクとショウガを炒めて、①と②を加え、酒を入れ、③を加えて合わせ、塩・コショウで味を調える。

アスパラ黄身酢かけ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約94kcal
アスパラガス	4本
むきエビ（無頭）	8尾
タケノコ（ボイル）	1本
塩	適量
木の芽	4枚
卵黄	2個分
水	大さじ3
砂糖	大さじ1
酢	大さじ1

〈作り方〉

- ① ボウルに④を入れて泡立て器でよく混ぜながら、湯煎にかけて火を通し、「黄身酢」を作り、冷やしておく。
- ② アスパラガスは下部1/3の皮をむき、塩茹でして冷水にとり、4cmの長さに切る。
- ③ むきエビは塩茹でし、冷水にとる。タケノコは縦半分に切り、5mm厚位の薄切りにする。
- ④ 器に水気をよく切った②③を盛りつけ、①の「黄身酢」をかけて木の芽を飾る。

POM うっくうきつぷみかん

最後までプチッとおいしい
新感覚のつぶつぶドリンク

容器の底に粒が残って なんだかもったいない...
最初から最後まで 粒を均等に飲み干したい！
粒入り飲料ならではの悩みも
「うっくうきつぷみかん」なら解決できます！

特別な製法で粒を浮かせて
最後まで均等に粒が飲めるようにしました！

国産みかんのつぶ使用

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com

全国発送
承ります。

愛媛の 極上しぼり 揃いました

えひめ缶みかん いよかんジュース 2,420円(税込) 250g×30本/ケース	えひめみかんいよかん ジュース 2,080円(税込) 1,000ml×8本/ケース	えひめつぶみかん いよかんジュース 2,980円(税込) 1,000ml×8本/ケース	愛媛の味わい 柑橘100 2,120円(税込) 1,000ml×6本/ケース	愛媛の 不知火50 2,160円(税込) 1,000ml×8本/ケース
---	--	--	---	--

愛媛産の温州みかんといよかんの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%の飲みきりサイズの缶ジュースです。

愛媛産の温州みかんといよかんの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%ジュースです。

愛媛産の温州みかんといよかんの果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた飲み物感覚の果実分100%ジュースです。

愛媛県産の「清見」「まりひめ」「ボンカン」「不知火」をブレンドした爽やかな味わい。

愛媛県産の不知火を使用した果汁50%飲料。濃厚な甘味と程よい酸味です。

※宅配運賃について ●同一受注同一送付場所で5ケース以上の場合は配送運賃は無料です。●5ケース未満の場合は、ケース毎に500円(税込)加算します。

愛用運動期間 4月1日~8月31日

主催団体／JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動推進本部・県内各JA・JA愛媛中央会・JA全農えひめ
協賛団体／JAえひめ女性組織協議会・愛媛県農業青年団連盟・愛媛県果樹研究同友会・愛媛県女性果樹同友会・愛媛県果樹生産者同友会協議会・
愛媛県茶業振興協議会・JA愛媛県果菜・JA林産物愛媛・JA愛媛産主会・愛媛県船運・JA愛媛県漁業

